

# N NEWS LETTER

中央労福協ニュース

労働者福祉中央協議会  
NATIONAL COUNCIL OF WORKERS' WELFARE

発行人 南部 美智代

No. 208

〒101-0052  
東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F  
Tel. 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>

# 2024 謹賀新年

労働者福祉中央協議会



会長 芳野 友子

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大は国民生活を一変させ、格差や貧困、社会の分断が深刻化し、コロナ禍以前から抱えていた日本社会の脆弱性が次々と浮き彫りになりました。感染症法上の位置付けが5類に移行され社会経済活動の回復は進みつつありますが、ただ単にコロナ前の状態に戻るのではなく、更により良い社会とすべく、公的セーフティネットの強化を継続して求めていく必要があります。中央労福協では、コロナ禍で生活に困難を抱える人たちやその相談・支援活動を応援するための「ろうふくエール基金」を継続してこられた事は、ひとえに皆さまのご協力があったてのことです。心より感謝申し上げます。

さて、中央労福協では「高等教育費の漸進的無償化と負担軽減」に向けて、この間、取り組みを進めてきましたが、今後、国民的合意形成をどのようにはかるのか、もう一段レベルアップした運動の展開が求められています。また、地域共生社会を構築する取り組みとして、地方労福協を中心として取り組まれております、ライフサポートセンターにおける活動の重要性は、これまでと変わることはありません。

しかし、昨今の物価高の影響は生活者を直撃しており、

子ども食堂に代表されるように、地域に寄り添った直接的な支援を行う活動が今後ますます必要とされます。労働者福祉運動と共助の輪の拡大に向け、労働団体・事業団体・地方労福協が、それぞれの立場で取り組んでいくことが求められます。中央労福協は引き続き、その結節点の役割を果たすとともに、社会的連帯経済(SSE)の担い手として、NPOや市民団体、社会的企業とのつながりを深めていきます。

労福協の理念にあります、すべての働く人の幸せと豊かさをめざした、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会に向け、これまで以上に皆さまのお力をお寄せいただくことをお願い申し上げます。



## No.208 Topics

- 2～7面 新年のご挨拶
- 8面 SSE 連続講座第4回レポート
- 9面 生活困窮者自立支援事業の好事例や課題を共有
- 9面 JAMにおける外国人労働者の支援および組織化の取り組み
- 10面 東部ブロックより「第58回定期総会」を開催
- 10面 北部ブロックより「第59回定期総会」を開催



日本労働組合総連合会  
清水 秀行 事務局長

## 2024年 新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。日頃より連合運動へのご理解とご支援をいただき心より御礼申し上げますとともに、中央労福協の取り組みに敬意を表します。

多くの方々の支えにより4年あまり続いたコロナ禍を経て、5類感染症に移行して初めての新年を迎えました。その一方で、物価高による生活苦を感じる方々が大勢おり、今ほど労働者福祉事業の役割が大きくなっていることはいかならないかと感じております。中央労福協の皆さまとは、働く者をはじめ生活に困窮している方々の声にしっかりと向き合い、一人ひとりに寄り添った取り組みを進めることができるよう、より一層、連携を強めて参りたいと思

います。また、連合としては、持続的な賃上げが可能となるよう経済社会のステージ転換を図るため、サプライチェーンにおける労務費を含む価格転嫁の実現を強く訴えて参ります。

世界を見ると「平和なくして労働運動なし」との信念が今もなお脅かされる脆さもあることを痛感しています。同じ空の下、戦火に不安を抱えながら命をつないでいる仲間の安全を祈り、改めてその想いを強くしたいと思

います。ジェンダー平等や社会的な対話の促進は、あらゆる連合運動の基盤となる取り組みであると同時に、持続的な労働者自主福祉事業にも資する取り組みであると確信しています。このような認識に立ち、今後も中央労福協の皆さまとともに様々な取り組みを進めて参りたいと思



一般社団法人  
全国労働金庫協会  
西田 安範 理事長

## 新年のご挨拶

新年おめでとうございます。

日頃より労働金庫に対しご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

労働金庫ではこの間、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、収入が減少した方への生活支援の観点から、勤労者生活支援特別融資や自治体提携融資等の取扱いを全国で展開してまいりました。引き続き5類感染症移行後も、はたらく人にとって、もっとも身近で信頼される福祉金融機関として「ろうきんビジョン」や「ろうきんSDGs行動指針」に基づき、生涯にわたる生活支援の取り組みを進め

ています。

また、中央労福協と呼応し、地方労福協と連携し「全国福祉強化キャンペーン」を通じ様々な課題にも取り組んでまいりました。

私たち労働金庫は、労福協、労働団体、事業団体との連携を強化し、産別等の加盟組織や地域の労働組合と「ともに運動する主体」として協働し、組合員・地域ではたらく方に寄り添い、生活応援や社会課題の解決に取り組んでいきます。はたらく皆様の大切な資金を「意思のあるお金」として、持続可能で誰一人取り残さない、包摂的な社会の実現に向けて使う流れを、皆様と共に作り出してまいります。

結びに皆様の益々のご健勝とご発展をお祈り申しあげ、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶 2024



全国労働者共済  
生活協同組合連合会  
打越 秋一 代表理事・理事長

## 新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、こくみん共済 coop の運動と事業に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は8月に開催した『第140回通常総会』において、2022年度計画の経過報告および2023年度計画設定などの諸議案を決定するとともに、任期満了に伴う新役員の選任をおこないました。また、お役立ち発想と共創活動にデジタル技術を取り入れた「新しいたすけあい」の創造・実践を進め、「こくみん共済 coop 公式アプリ」のリリースや「こくみん Life サポート」の開始、共済事務・共済金お支払い業務のデジタル化などの取り組みを展開しまし

た。

本年もこくみん共済 coop は、すべての役職員の総力を結集し、組合員・生活者の皆様に寄り添い、協力団体・共創パートナーの皆様との強固なパートナーシップを構築し、「新しいたすけあい」の創造・実践を進めていく所存です。

中央労福協とは、労働者自主福祉運動の更なる強化に向けて、加盟労働団体と「ともに運動する主体」の再確認をするとともに、全国福祉強化キャンペーンにおいては、引き続き「こくみん共済 coop 防災・減災運動」を重点活動とし、「災害時無保障者の解消」に向けて取り組みを進めてまいります。

むすびに、各組織の益々のご発展とご健勝をご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。



日本生活協同組合連合会  
土屋 敏夫 代表理事会長

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。昨年も皆様より、全国の生協に対し多大なご支援を頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

コロナ禍が始まって約4年、ようやく街角には活気が戻りつつありますが、ロシアによるウクライナ侵攻は出口が見えないまま3年目に突入しようとしており、昨秋イスラエルとパレスチナ・ガザ地区では戦争状態に至りました。このような不安定な国際情勢やインフレ・円安の進行もあいまって食料・エネルギー価格が大幅に上昇し、家計への打撃も長期化しています。また、日本の人口減少・少子化は加速し、地域の生活基盤やコミュニティの維持に綻びが

生じ、くらしの課題が山積しています。SDGsは2030年の期限まであと7年を残し、その達成は困難な状況にあります。

このような情勢の中、私たち生協は、行政や社会福祉協議会、他の協同組合、地方労福協や事業団体の皆様とのネットワークをこれまで以上に深めながら、これら地域社会の課題に取り組んでまいります。

国連は2025年を、2012年に続き2回目の国際協同組合年とすることを宣言しました。改めて「協同組合のアイデンティティに関する声明」において掲げた協同組合の定義・価値・原則について学びを深めながら、つながる力で未来を切り拓いてまいります。

この1年が皆様にとって実り多き年になりますようにお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶 2024



全国労働者福祉会館協議会  
上野 貞彦 会長

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

昨年も私どもの会館をご愛顧賜りましたことに心より感謝と御礼を申し上げます。

世界中をパンデミックに陥れた新型コロナウイルス感染症は感染症法上の分類が5類に引き下げられ、日常生活はもとより社会活動においても急激に活発さを取り戻してきており、会議もリモート型から実参加型へと元のかたちに戻りつつあることは言うまでもありません。

私ども会員会館においても会議室や宴会会のご利用は、コロナ禍前の状況に回復しつつあります。しかしながら、コロナ禍で受けたダメージや昨今のエネルギー価格をはじめ

めとする諸物価の急騰が、収益改善への道に険しさをもたらしています。

当然、経営安定のための取り組みを進めているところですが、特に宴会会事業は、人手不足も相まって楽観視できない状況にあります。

このような状況にありますが、働く人の相互扶助の精神で築かれた会館として、引き続き安心してご利用いただけるよう設備の改修やサービス向上に務め事業の継続に努力してまいり所存ですので、旧年を倍してのご利用をお願いいたします。

皆様におかれましては、本年が輝かしい年となりますようご祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。



全国勤労者旅行会連合会  
齊藤 正己 会長

## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

日頃より全国勤労者旅行会連合会（以下、全勤旅）に対しまして、ご指導・ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年5月より新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に引き下げられた事により国内旅行が動き出し、私どもの得意とする機関会議も宿泊での開催が増加し、訪日旅行はコロナ前の水準を上回りました。

旅行需要が戻るなか不安材料もあります。長年にわたるコロナ禍の中、宿泊業者は団体から個人客へシフトを強め、10～11月の繁忙期には、宴会（団体）の受け入れをしな

いホテルもあらわれました。

また観光貸切バス業者においてもドライバー不足により、繁忙期にはバスは車庫にあってもドライバーがいない為、満車という対応を取らざるを得ない会社も出てきております。

このような中、従来の宿泊を伴う機関会議や大会・バスレクなどの対応もさることながら、コロナ禍で培った新たな商品の販売や、きめ細かな情報提供やサービスなどを、皆様にご提供できるよう取り組んでまいります。

旅行需要が完全回復するまでには、まだ時間はかかるかもしれませんが、コロナ禍での皆様からの温かいご支援に御礼申し上げますと共に、労福協・労働団体・各事業団体からの引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

全勤旅の設立目的である勤労者の福祉増進を図るため、一層の事業推進に努めることをお誓いし、また、皆様にとって素晴らしい年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶 2024



一般社団法人  
日本労働者信用基金協会  
砂金 良昭 理事長

## 新年のご挨拶

新年おめでとうございます。

旧年中は日本労信協の活動に格別のご支援、ご高配を賜り、誠にありがとうございました。

2023年5月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが5類に移行されて以降、経済活動はコロナ禍以前の状態に戻りつつありますが、資源価格の高騰とロシアのウクライナ侵攻を端緒とする世界的なインフレによる物価高が家計を圧迫し続けています。当協会は引き続き労働金庫をはじめとする関連団体の皆様と連携し、勤労者ニーズに合わせた保証・サービスの提供を通じて働く人とその家族

が安心して生活できるよう取り組んでまいります。

2024年4月からスタートする第9期中期経営計画は、「信用保証事業を通じた勤労者福祉の向上」「系統保証機関としての役割発揮」「基盤となる職場環境の整備」を事業の柱とし、適切な事業運営に必要な人材を継続的に輩出する仕組みを構築し、人材を基軸として保証制度の改善に取り組み、お客さまと労働金庫に貢献することを目的としております。

本年も中央労福協を中心とする労働者自主福祉運動と歩調を合わせて、働く人への融資が円滑に進むよう尽力するとともに公益性に根ざした信用保証事業を展開してまいりますので、引き続きのご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、皆様方の益々のご健勝とご発展を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。



日本労働者協同組合連合会  
古村 伸宏 理事長

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

日頃より、労働者協同組合の取り組みに格別のご理解ご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

労協法が施行され、1年が経過し、全国で65以上の労働者協同組合が生まれました。この間、加盟組織と共に、法の周知や協同労働の学習、立ち上げ支援に取り組んでまいりました。政府や自治体も労協の活用を呼び掛けるなど、公益に関わる社会的な制度としての期待が高まりつつあります。

国連は、2025年を再び「国際協同組合年」(IYC)と決

議しました。決議には、あらゆる人がその力を高め、エンパワーメントし、人生とコミュニティを変革し、寛容で包摂的・対話的な社会の実現を、協同組合という組織と文化をつうじて実現すると記されています。

労協法は、出資・意見反映・従事の基本原則に基づき、多様な就労機会を創出し、地域ニーズに応じた事業が行われ、持続可能で活力ある地域社会の実現に資することを目的とし、労働者協同組合の広がりがIYCの実現につながるものと考えます。地域における協同労働の推進とそのネットワークづくりへのご協力ご指導を、引き続きお願いいたします。

今後も、すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、加盟団体のみなさまとともに労働者福祉運動の推進に取り組んでまいります。



日本再共済生活協同組合連合会  
野田 三七生 理事長

## 新年のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

発症確認から4年。世界を翻弄した新型コロナウイルス感染症は、ようやくにして収束（ポストコロナ）が展望できる状況が現出し、日本においては、昨年5月の感染症法上の分類変更を契機として、“新たな日常”のもとでの社会・経済活動も活況を呈す状況となっています。

このような中で、皆様におかれましては、健やかな新春を迎えられたことと存じますが、昨年を振り返れば、地球温暖化や気候変動に起因する大規模自然災害が世界各地で多発した一年。日本においても、5月以降の豪雨や台風が全国各地に甚大かつ深刻な被害をもたらしたことは記憶に

新しいところでは。

日本再共済連は、再共済の専門団体として、会員の事業の安定と発展に貢献できるよう、経営政策の具現化に全力投球致します。引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げますとともに、迎えた2024年が、皆様方にとりまして“幸多き飛躍の年”となりますことをご祈念申し上げ、ご挨拶といたします。



一般社団法人  
全国中小企業勤労者福祉  
サービスセンター  
野寺 康幸 会長

## 令和6年新年あいさつ

明けましておめでとうございます。

コロナやインフルエンザがそれなりの落ち着きを見せる一方多くの国民が物価高に苦しんでいるのが現状です。戦火に喘ぐ国々のことは素より、我が国が課題を抱えた対中、露、北朝鮮についても一向に進展が見られないようです。

税という過大な負担を強いている政府は果たして国民の負託に答えているのでしょうか。しかし、安易な悲憤慷慨は止め、目の前にある福祉の課題に着実に取り組んでいきましょう。自治体の長の事業仕分けを狙ったポイント稼ぎか、半世紀に渡り庶民の細やかな少額保険であった慶弔共

済を受け皿も無しに、ある日突然廃止してしまう動きがジワジワと起きています。

「福祉はひとつ」の旗のもとに集う皆様と共に、世の陽気を動かす竜の今年、あるべき福祉の形を整える動きを一歩進めようではありませんか！



新年のご挨拶 2024



日本医療福祉  
生活協同組合連合会  
高橋 淳 代表理事会長理事

## 「誰もが健康で居心地よくくらするまちづくり」をともに作りましょう

あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2020年以降、猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に感染法上の区分が2類相当から5類に引き下げられましたが、インフルエンザの患者がさらに増加するなど、複数の感染症が同時流行しており、予断を許さない状況となっています。物価上昇も続き、私たちの健康やくらしはますます厳しさを増しています。

2022年に始まったロシアによるウクライナへの軍事侵攻は終息の目途が全く見通せません。さらに、昨年10月に発生したイスラエルとハマスの軍事衝突は、罪のない

民間人に大きな犠牲をもたらしました。

また、気候危機も一段と深刻さを増しており、各地での温暖化による環境変化や、大規模災害が頻発しており、気候危機への対策強化も待ったなしの状況です。

こうした情勢の中でも全国の医療福祉生協では「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる」の理念に基づき、引き続き「地域まるごと健康づくり」「おたがいさまのまちづくり」に積極的にとりくんでいきます。そのためには医療福祉生協の魅力や価値をより多くの方に知っていただく活動を進めてまいります。そして、人権を大切にす社会、平和で持続可能な社会、誰一人取り残さない社会の実現をめざし、私たちは行動し続けてまいります。

医療福祉生協に対する皆様のご理解と、更なるご指導・ご鞭撻をお願いするとともに、本年が皆様にとって幸せな一年となりますよう心から祈念申し上げます。



住宅生協等全国協議会  
松元 光彦 会長

## 新年のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍はようやくウィズコロナが多方面に浸透し、緩やかに社会経済全般に亘って地に足が着き始め、ポストコロナの時代へとステージが変わってきたことを実感した一年でありました。

近年の住宅産業は、資材高騰、人材不足・人件費高騰など、様々な課題を抱え、これらの問題は住宅価格の上昇と消費者の購買意欲低下を招くという負の連鎖を生じさせていま

す。「用地不足」や「人口減少下での住宅数の過剰」といった構造問題そのものも横たわり、大変難しい局面に立たされています。空き家問題も深刻さを増していますが、その一方で、“健康”、“省エネ”、“防災”、“防犯”などの質の面で、次世代に引き継げる良質な住宅を確保していかなければならない使命も課されています。昨今ではGXのキーワードを目にする機会も増えてきましたし、エネルギー消費と密接に関わる産業を担っている事業団体として、その役割を認識しなければならないと考えています。

住生活の安定と向上は生活の安定と成長・発展に繋がるとの思いを持ち、会員組織それぞれが懸命に取り組みを進めていきたいと考えております。

皆様方の今年一年のご健勝とご多幸ご発展を祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新年のご挨拶 2024

「つながる経済」で社会を変える！ オンライン連続講座レポート

## 「曖昧な雇用」で働く人たちを包摂する新たな労働運動



菅俊治氏

長坂氏

高橋忠雄氏

河野広宣氏

中央労福協は連続講座「『つながる経済』で社会を変える！」の第4回を12月7日に開催し、フリーランス等で働く方々の権利を守るための法的規制をテーマとした前回に続き、そうした方々を包摂していく労働運動や共済について焦点をあて、運動に関わる関係者4名から現状や課題を学んだ。

多様な働き方が広がる中で、連合はフリーランスが抱える様々な困りごとを解決するためのサイト「Wor-Q（ワーク）」を2020年に立ちあげ、フリーランスが緩やかにつながるネットワーク会員や、団体扱いで加入できる「Wor-Q 共済」を運営している。こうした取り組みについて、ナビゲーターを務めた伊丹謙太郎・法政大学大学院教授は「新しい社会の課題や困難に対しての労働運動や労働者福祉運動の側からのひとつの提案」と評価した。

連合の河野広宣総合組織局長は、連合の調査からみえてきた曖昧な雇用の実態、Wor-Q を立ち上げた思いや概要を報告し、フリーランスの方々に「一人で悩むことなく連合（0120-154-052）に相談して」と呼びかけた。

Wor-Q 共済を提供しているこくみん共済 coop の高

橋忠雄専務理事は、同共済ができた背景や制度内容、現状と課題を説明し、多様な働き方の人たちを包み込んでいく「たすけあいの挑戦」の意義や抱負を語った。

当事者であるウーバーイーツユニオンの長坂書記長は、ユニオン設立の経過や個人事業主として扱われている配達員の就労環境の実態や問題点を指摘し、「フリーランスや個人事業主は自由なので自己責任だとされるが、自由と安心は両立できる。そのためにユニオンで労災補償などを求めて活動していきたい」と述べた。

フリーランス労働をめぐるトラブルへの支援を行っている菅俊治弁護士は、相談の特徴や具体的な解決事例や障害となる点、フリーランス新法の現在地や今後の課題などについて解説し、「一人では世の中は変えられない。労働組合が拠点となって“社会的連帯”しよう」と訴えた。

登壇者によるクロストークでは、働く人たちが分断され連帯が困難な状況の中で“つながる”ことの大切さや、労働者だけでなく企業や産業全体を巻き込んでいく連帯の必要性、Wor-Q 共済の意義と期待などについても議論を深めた。

<連続講座の申込受付中> 第4回の見逃し配信も視聴できます。

<第5回のご案内> 2024年1月23日（火）13:30～14:30（見逃し配信あり）

### 「プラットフォーム協同組合の可能性と課題」

講師 中野理・日本協同組合連携機構（JCA）研究員



詳細・申込は  
コチラから！

## 生活困窮者自立支援事業の好事例や課題を共有 相談支援員オンライン交流会を開催



中央労福協は12月13日、生活困窮者自立支援事業に携わる相談支援員のオンライン交流会を開催し、43名が参加した。本交流会は3年目の取り組みとなり、事業を実施している5地方労福協（新潟・山口・徳島・愛媛・沖縄）に加え今年度よりワーカーズコープからも6地域が加わり、より多くの地域や多様な実施主体との交流ができた。

交流会の前半はお二方から報告・問題提起をいただいた。新潟県パーソナル・サポート・センターの小田恵センター長は、風俗に従事している女性の相談支援を行っているNPO法人風テラスと連携した取り組みの紹介や、様々な事業を実施する中での課題やモヤモヤした悩みを問題提起した。労働者協同組合ワーカーズコープちばの菊地謙代表理事は、相談の中での居住支援の高いニーズ

を受けて自主事業と自治体の助成金を利用したシェルターの運営を行っていることや、フードバンクや制服バンクなど様々な活動で地域づくりに取り組んでいることを報告した。

その後、7つのグループに分かれ、問題提起を受けた意見交換やそれぞれの地域の好事例や課題、悩みなどの共有や経験交流を行った。

参加者アンケートからは、「同じような悩みや疑問を持っていることが分かり、励まされた」「ワーカーズコープさんの取り組みがとても幅広くて良い刺激となった」「労福協の方と交流できて非常に良かった」などの前向きな感想が多くを占め、これからの支援業務につながる有意義な交流の場となった。

## JAMにおける外国人労働者の支援および組織化の取り組み 第38回Web学習会を開催

中央労福協は第38回Web学習会を12月14日に開催し104名が参加した。講師にJAM会長の安河内賢弘氏と、同組織グループ組織化推進局の藤岡小百合氏をお招きし、「JAMにおける外国人労働者の支援および組織化の取り組み」と題して、ご講演いただいた。

冒頭、安河内会長は「日本で生活している外国人労働者は毎年増加しており、2022年には180万人超となった。外国人全体だと約300万人が生活しており、移民大国と言われているフランス（約400万人）に追いつくのは時間の問題で、日本は既に移民大国と言える。その中で、少なからず大変な思いをされている方がおり、一人でも多く救うために努力している。彼らを救うことができるのは労働運動だけだ」と訴えた。

続いて藤岡氏から、JAMの体制、外国人からの相談件数と相談経路、在留資格について解説があり、「セクハラ及び雇用調整助成金の不正受給」「即日解雇及び不当労働行為」などの具体的事例について、経緯や資料、音声などを交えて報告があった。また、技能実習の問題点として、



転職の自由が無いなどの人権侵害があること、給与は基本最低賃金である等について指摘があった。

まとめに「直接会社に改善を求められるのは団体交渉権のある労働組合だけ。たまたま労働者が外国人であっただけで、日本の企業で起こっている労働問題であり、明日は我が身だと考え、日々の相談を受けている。問題とは、起こっていることを知ることで初めて問題になるものであり、本日は皆さんに知ってもらうことができ良かった」と語った。

## 東部ブロックより 労働者福祉東部ブロック協議会「第58回定期総会」を開催

東部ブロック協議会は11月29日、埼玉県「一般財団法人埼玉県勤労者福祉センター（ときわ会館）」において第58回定期総会を開催した。

東部ブロック協議会は、関東地方を中心とした1都10県で構成されており、本総会には45名（来賓・傍聴含む）が出席し、労働者自主福祉運動の発展、ならびに連帯協同による「安心・共生の福祉社会」の実現をめざした活動を展開することを確認した。

開会后、東部ブロック協議会を代表しての吉成会長挨拶、開催県を代表して埼玉労福協の近藤理事長からの歓迎の挨拶の後、中央労福協・南部事務局長、連関東ブロック連絡会・吉坂副代表、中央労働金庫・安永副理事長、こくみん共済coop関東統括本部・山田常務執行役員よりご挨拶をいただいた。

議案審議は、大塚事務局長より第1号議案～第6号議案までの提案を行い、満場一致で承認された。

第6号議案では2024年度の役員体制が確認され、内村



事務局長（東京）・中西副会長（静岡）の就任が確認された。昨年度まで三役を担っていただいた大塚事務局長（東京）・池富副会長（静岡）は本総会で退任が確認された。

また、総会終了後の講演会には、特定非営利活動法人さいたまNPOセンター代表理事の堀越 栄子氏をお招きし、ケアラーの実態について講演をいただいた。

## 北部ブロックより 北部労福協第59回定期総会を開催

北部労福協は12月4日、山形市で第59回定期総会を開催した。

総会では、幹事会を代表し船山会長は「新型コロナウイルス感染が収束傾向にある中、2023年度は平時の活動を行なうことができた。引き続き、中央労福協、各地方労福協と連携を強めていきたい」と述べた。また「働く者は物価上昇の中で大変な状況に置かれている。大幅な賃金上げが行なわれたが、物価上昇に追いついていない。誰もが共に助け合って、暮らしやすい社会をつかっていきたい」と挨拶した。

続いて、来賓の中央労福協 南部事務局長をはじめとする4人から挨拶。

議案審議では、2024年度活動方針など5議案を満場一致、決定した。

役員改選では、船山会長（山形）、武藤会計監査（秋田）が退任し、新たに澤田会長（福島）、遠藤事務局長（福島）、菅野会計監査（山形）を選出した。

最後に「活力ある参加型社会の実現と、誰一人取り残さ



れない社会、明るい未来をつくる」などの総会宣言を採択し閉会した。

総会終了後の特別講演では、全日本空輸の佐藤菜々子さんから「山形を元気に！～ANA SHONAI BLUE Ambassador 活動を通じて感じる地域創生の在り方～」と題して講演をいただいた。